

桜

生 工

日本大学生産工学部校友会誌

2009

Vol.39

CONTENTS

ごあいさつ

生産工学部校友会長 高野和雄 —— 2

生産工学部工学部長 石井 進 —— 2

特集「新学科のこれから」—— 3

生産工学部長 石井進先生を囲んで

日本大学副総長 石井進先生を囲む会 —— 6

平成21年度代議員総会 —— 7

母校を訪ねる会 —— 8

桜泉祭 —— 9

OB紹介 —— 10

鹿島建設(株) 林 昇

学科ニュース —— 12

入学試験 —— 16



生産工学部校友会会長

高野 和雄

校友の皆様におかれましては、益々の御健勝と御清栄の趣、心より御慶び申し上げます。

昨年の6月に生産工学部校友会代議員総会において御承認を受け、鬼丸三也前会長の後継として生産工学部校友会長に就任し、早や1年余り。「光陰矢の如し」の喩え通り、時間の流れの早さに驚いております。そして、この紙面をお借りして、種々の校友会活動に多大な理解を示していただける石井進学部長をはじめ校友会の皆様の校友会活動への御協力と御尽力に深く感謝申し上げます。

本年の4月1日には、とても喜ばしいことが2つ重なりました。1つは、石井進先生が2度目の日本大学副総長に就任されたことであり、1つは、環境安全工学科と創生デザイン学科が生産工学部として57年振りに新設されたことであります。

9月には「日本大学副総長 石井進先生を囲む会」を開くことができ、多数の御来賓の方々の御臨席と生産工学部教職員及び校友会の皆様のお参会を得て盛会に開催することができ、ここに重ねて感謝申し上げます。

加えて、新設学科に入学した学生達は、モチベーションも高く、意欲的な学生が多いと聞いており、石井先生が推進する「魅力ある大学づくり」の新しい柱になるものと大いに期待しております。

今後共、校友会活動を通して校友の皆様と共に母校の発展に寄与したく、倍旧の御指導、御鞭撻の程、心より御願ひ申し上げます。



日本大学副総長
日本大学生産工学部長
生産工学部校友会名誉会長

石井 進

校友の皆様におかれましては、益々御健勝のことと御慶び申し上げます。また日頃より学部の教育、研究そして運営に対し、多大な御理解と御支援、御協力をいただき、ここに深く感謝申し上げます。

本年4月1日より2度目の日本大学副総長に就任致しましたことを、先ず校友の皆様にご報告申し上げます。

また、去る9月18日には、高野和雄生産工学部校友会会長が発起人となり、盛大な「囲む会」を催していただくと共に、皆様より親しくお言葉を賜り、重ねて感謝申し上げます。

生産工学部では、現代社会のニーズや受験生のニーズをいち早く取り入れ、4月1日より2つの新設学科（環境安全工学科、創生デザイン学科）を発足させ、多くの入学生を受け入れました。新設学科創設は本学部では57年振りになりますが、既設7学科を横断的に把握、学際領域に位置する分野は、受験生にとって魅力的であると共に、近年、社会が強く望み、強く求める内容を持つことを裏付けたと考えています。更に、学生への種々の支援を行い、「この大学に入学し、学ぶことができて本当に良かった」と言われるように環境を整え、大学の生き残りをかけた「魅力ある大学づくり」の実践を行う所存でございます。

大学、学部の改革・活性化をより進めるためにも、校友会・卒業生の皆様のご理解、御支援、御協力を賜りたく宜しく御願ひ申し上げます。

生産工学部では、本年4月1日より環境安全工学科と創生デザイン学科が新設されました。副総長・生産工学部長の石井進先生、環境安全工学科主任教授の越川茂雄先生、創生デザイン学科主任教授の日高肇也先生にお集まりいただき、川岸梅和校友会広報副委員長より新学科の現状と今後の展望などについてインタビューさせていただきました。（平成21年8月31日、生産工学部長室にて。以下、敬称は略させていただきます。）

川岸：本日はお忙しい所、お時間をいただき有難うございました。4月1日より新学科が発足しましたが、先ず、新学科誕生の背景について石井先生よりお話をいただきたく存じます。

石井：少子化を迎えた今日、18歳人口の減少により大学全入時代の到来や受験生の理工科系離れなど私立大学を取り巻く環境は極めて厳しい状況にあるのは言うまでもありません。大学・学部の生き残りをかけて学生にとって魅力ある大学に変わる努力が不可欠だと以前より考えておりました。そのためには、多様化する社会のニーズに対応し、消費者の目線でモノづくりを担う技術者を育てることと文系と理系の融合教育を実践することで魅力を更にアップさせることなど、学部長に就任してすぐに新学科創設のための取り組みを行いました。

川岸：他大学や理工学部、工学部との違いがより明確になったと思いますが…。

石井：その通りです。特に、他学部にある学科と重複しない名称と内容を有することと産業構造の変革にいち早く対応することが魅力ある生産工学部らしさを醸し出すことに繋がることだと思います。

川岸：環境安全工学科にはどのような思いが込められていますか。

越川：環境安全工学科は環境と安全に主眼をおいた学際的分野を連携した学科であることは勿論、この領域は持続可能な社会の構築にとって極めて重要であり、社会からの要請も強く、特に産業界における需要は増大していると考えています。また科学技術創造立国として、将来的に地球規模の視点から環境保全や人間生活における安全の確保を科学・技術的な側面から実現してゆくための有為な人材を社会に送り出したいと強く思っています。

川岸：学科の英文名にサステナブルという単語が入っていますね。

石井：将来にわたり地球規模の環境保全と人間生活の安心・安全の持続的な確保のために自律して勉強をし続けることができるエンジニアの育成への思いを込めています。

川岸：工学部にデザイン学科が設置されている例は少ないですが、創生デザイン学科にはどのような思いが込められていますか。

日高：創生デザイン学科は従来の作る側のコンセプトやデザインではなく「アートとテク



石井進 日本大学副総長・生産工学部長

越川茂雄 環境安全工学科主任教授

「テクノロジーの融合」をテーマにした、使い手や社会の立場に立った「やわらかい工学」を身につけたデザイナーやコンセプターを育てることを目的にしています。

川岸：「やわらかい工学」とはどのようなことですか。

日高：アートとテクノロジーの分野がどの位バランス良く構成しているか。21世紀に求められているバランス創造科学・工学を実践するには工学部に存在する利点を生かすことだと考えています。応用美術としての美的要素、科学技術の裏付け、地球環境への配慮、人に対する思いやりや優しさなどが加味された「ものづくり」への思いが込められています。

石井：これからは理系、文系にとらわれない分野を担う人材が必要になってくると思われます。例えば、住宅、家電、自動車、ロボットなどは価格、機能に加えてデザイン力が問われます。ただ、競争力のある「ものづくり」を考えれば、芸術的な美的要素だけでなく、実用化のための工学的な裏付けが欠かせません。

川岸：環境安全工学の分野でも言えますね。

石井：その通りです。特に、環境安全などの制御には工学的な技術的要素に加え、法制度などの知識が求められます。そこで使い手の目線に立ち「出口」を意識したエンジニアの育成により一層力を注ぎたいと考えています。

川岸：1年前期の授業が終わりましたが、学生達の学習への意欲や取り組みはどうでしょうか。

越川：入学動機として環境や安全やエネルギーなどに対する問題意識や理解志向を持ち合わせたとても意欲的な学生が多く見受け

られます。日高先生も先日話されておられましたが、モチベーションの高い学生も多く見受けられます。

日高：ものづくりやデザインに対する興味や志向が皆始めから高いものが感じられます。

川岸：具体的な授業ではどうですか。

越川：フレッシュマンセミナーの授業では1グループ14～15名に分け、社会人としての礼儀や礼節を教えると共に、実務者の講義の後、実習ではキャンパス内のマンホール内を内視鏡を使い操作させたところ、学生達の目の色が変わってきました。今後もこのような教育を続けていきたいと思っています。

石井：このように、知識だけでなく実習体験や実務経験で実際を知ることが重要です。

日高：創生デザイン演習Ⅰでは、デザインの基礎を学習していますが、これから4年間に作り続けた全作品を自分の作品集（ポートフォリオ）を作り、まとめなさいと言っています。4年間の歩みが分かるのは勿論、課題内容を的確に作品として表現できているかが分かります。

川岸：しっかりした学生も見受けられますね。



石井進 日本大学副総長・生産工学部長

日高肇也 創生デザイン学科主任教授

日高：目的意識が明確な学生がいます。「病院にアートがない」と感じ、工学と芸術の両方が学べるから受験し、入学したという学生もいます。

川岸：デザイナーだけでなく、コンセプターも重要な役割を示しますね。

石井：基礎的なことをしっかり身に付けられ、社会に出てからデザイナーやコンセプター、そして技術者として「ふつつつ」と才能が開花してくる人達もいるはずですよ。

川岸：そのために重要なことは何でしょうか。

石井：専門分化した縦割りの状況をより横断的に構成することが重要です。そして本学部の特徴である生産工学系科目を実学・実務にフィットできるようにすることと、日本大学のアカデミック・スケールメリットを生かした内容を持ち合わせることでと思います。

川岸：3年半後に第1期の卒業生が生まれますが、彼等に期待することは何でしょうか。

越川：自然との共生、安全な生活が重要な現在、「環境」「安全」「エネルギー」がキーワードになります。既存企業から新たな企業へと変容が続く中、専門的な機能だけでなく、

環境安全工学科で学び、経験したことに加え、全ての法律の知識も含めた総合的な職能を持つことにより、どこでも必要な人材としてビックビジネスにつながると思います。

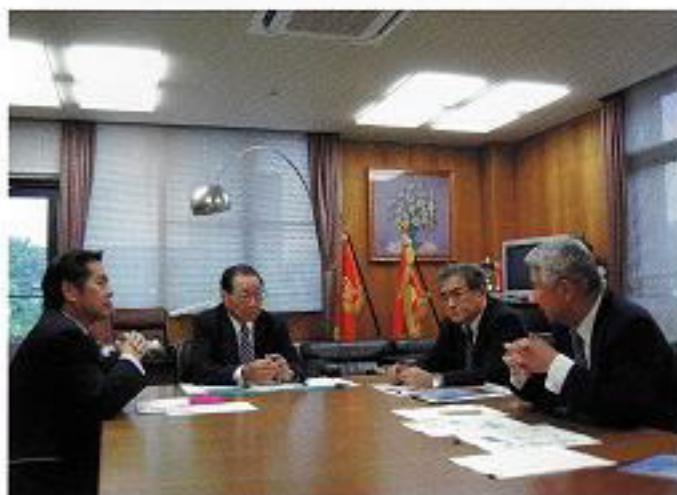
日高：価値の変換があった時に「エッ」と思うような才能や一般企業の中でコーディネーターできる才能など、総合的なデザイン能力やコンセプターとしての能力を持ち合わせた人材として社会で活躍してほしいと思っています。

川岸：既存学科を横断的に結び、繋いだ成果に期待するところですね。

越川・日高：その通りです。

石井：加えて言うなら総合的な能力を身に付けると共に、自分は環境安全工学科での、創生デザイン学科での得意分野は「これ」と言える、何をやり遂げたかをしっかり言えることも必要だと思います。

川岸：社会的なニーズと受験生のニーズに答えていることの裏付けは受験生の数と入学手続き率の高さと意欲的な学生達の多さに表れていると思います。2学科の益々の発展を祈念すると共に、今日は、先生方より貴重なお話をいただき、心より感謝申し上げます。



左から、川岸梅和 校友会広報副委員長
石井 進 日本大学副総長・生産工学部長
日高草也 創生デザイン学科主任教授
越川茂雄 環境安全工学科主任教授

校友子女入学試験

■出願資格：次の①、②および③の要件を満たす者。

①大学入学資格を有し、本学への入学を第一希望とする者で、次の（ア）～（オ）のいずれかに該当する校友の子女（2期等内直系血族：受験者本人の祖父母、父母、兄弟、姉妹）である者。

（ア）下に示す、学校法人日本大学寄附行為施行規則第8条に規定する「学校法人日本大学が設置する学校」を卒業または修了した者。

学校法人日本大学が設置する学校：●日本法律学校 ●高等工学校及び工業専門学校 ●東洋歯科医学校及び歯科医学校 ●東京獣医学校 ●専門学校令による専門学校、専門部、高等師範部、高等専攻科及び師範専修科 ●東京高等獣医学校及び東京獣医畜産専門学校 ●専門学校令による大学 ●大学令による大学及び予科、大学院及び短期大学 ●学校教育法（新学校）による大学、大学院及び短期大学

（イ）日本大学寄附行為施行規則第9条に定める推薦校友。

（ウ）学校法人日本大学が設置する学校に勤務を有する専任教職員または専任教職員であった者。

（エ）学校法人日本大学の役員または役員であった者。

（オ）学校法人日本大学の特別付属・準付属校を設置する法人に勤務を有する専任教職員または専任教職員であった者。ただし、特別付属・準付属校を設置する法人は、平成20年4月1日現在のものとする。

②生産工学部への入学を第一希望とする者。

③合格した場合、本学部に入學することを確約できる者。

日本大学副総長 石井進先生を囲む会

日本大学副総長 石井進先生を囲む会

本年、4月1日付けで、2度目の日本大学副総長に就任された石井進 生産工学部長の御祝いと、今後の益々の御活躍と御発展を祈念した「日本大学副総長 石井進先生を囲む会」が、9月18日（金）午後6時30分より紀尾井町のホテルニューオータニ「鳳凰の間」で、約300余名の御臨席・御参会を得て開催されました。

大澤慶吉 生産工学部校友会企画委員会委員長の司会進行のもと、先ず発起人である高野和雄 生産工学部校友会会長より、多数の皆様様の御臨席と御参会に対する謝辞と共に石井進先生の御実績と人間味あふれる御人柄について御紹介がありました。

御来賓を代表して、日本大学副総長・総長代理代行者・商学部長の勝山進先生と日本大学校友会会長・日本大学理事長の田中英壽先生より心温まる御祝辞と御挨拶をいただきました。

平成15年管理工学科卒業の吉田雅子さんより花束贈呈の後、石井進先生より本部と生産工学部での近況の御報告と謝辞が述べられ、大谷利勝 元日本大学副総長・生産工学部長より祝辞と乾杯の音頭の後、石井進先生を囲み、御来賓の方々、教職員、校友の皆様を交えて歓談し、和やかな祝宴となりました。



日本大学 副総長 石井進先生を囲む会

高野和雄 日本大学生産工学部校友会会長 御挨拶



勝山進 日本大学副総長・総長代理代行者・商学部長 御挨拶



田中英壽 日本大学校友会会長・日本大学理事長 御挨拶



石井進 日本大学副総長・生産工学部長 謝辞



大谷利勝 元日本大学副総長・生産工学部長による乾杯



吉田雅子さん（管理工学科卒業）より花束贈呈

工科系四学部

第12回日本大学工科系校友会支部長会が平成21年8月29日(土)日本大学薬学部8号館で開催されました。北は北海道南は九州の各支部長、4学部校友会幹事約100人が出席し各支部の現状報告をしました。懇親会は船橋グランドホテルに移りご来賓に草間貞業学部長、滝戸俊夫理工学部長、出村克宣工学部長、石井進生産工学部長、鈴木秀雄薬学部事務局長、白川龍美理工学部事務局長、三田光顯生産工学部事務局長をお迎えし、楽しい祝宴となりました。

来年は理工学部校友会が当番校になります。



第12回工科系校友会支部総会

第3回グリーン会・校友会合同コンペ

平成21年10月3日(土)スカイウェイカントリークラブで生産工学部教職員と校友会幹事(約80人)で合同コンペを開催しました(各個人払い)。競技方法は18ホール新ペリア方式(同ネットは年長者上位)で行われました。

優勝は山中茂己さん(実務事務課長)準優勝は坂井卓爾さん(機械教授)3位河原和人さん(電気・電子校友会)でした。

授賞式では石井進生産工学部長のご挨拶で始まりたいへん和やかな祝宴となりました。次回幹事は電気・電子部会です。



第3回日大グリーン会・校友会合同ゴルフコンペ

母校を訪ねる会

生産工学部では毎年、桜泉祭(旧泉祭)の時期(今年度は11月1～11月3日)に「母校を訪ねる会」を開催し、皆様をご招待申し上げております。

今年度は卒業50年(昭和34年卒業)、卒業40年(昭和44年卒業)、30年(昭和54年卒業)、20年(平成元年卒業)及び10年(平成11年卒業)を経た皆様を対象に、下記のように第21回「母校を訪ねる会」を催したく存じます。

なにかとご多端の折とは存じますが、是非御家族共々ご来場賜り、在学当時の先生方を交えた教職員との懇談やお互いの旧交を温めるとともに、後輩の主催する桜泉祭を見学され、ご指導くだされば有り難く存じます。

尚、ご招待申し上げる卒業生以外の皆様でもご都合がよろしければ、お互いお誘い合わせの上、お気軽にご来校くださることを心よりお待ちしております。

- 日時 平成21年11月3日(火曜日)
受付: 14時00分～15時50分
1号館1階正面入口
懇親会: 16時00分～17時30分
1号館3階大会議室
学内見学: 随時一桜泉祭、研究室等を見学、訪問してください。
- 場所 日本大学生産工学部津田沼校舎
- 会費 無料
- 連絡先 校友会事務局 047(476)1140



平成20年度母校を訪ねる会・懇親会会場

第
18
回

桜泉祭

開催日時

11月1日～3日



模擬店

昨年も多くの模擬店があり、大変賑わいました。今年も多数の団体が様々なおいしい料理を販売します！



展示

各サークル、団体、研究室等が教室やテントで展示を行います。



ステージイベント

上の写真は昨年のビンゴ大会の様子です。今年も豪華賞品をご用意してお待ちしております！

同窓生の皆様には、日頃各所で御活躍の事と御慶び申し上げます。

今年度桜泉祭は18回目を迎えることになりました。

昨年度の桜泉祭も多くの方々からの御協力・御支援をいただき、約1万2千人もの来場者を迎え、盛大のうちに終えることができました。

そして、今年度から本学部が2学科を増設、7学科のコース編成をリニューアルしたことを受け、新たに9学科となって初の桜泉祭であることからテーマとして「START～彩のかがやき～」を掲げることで、生産工学部のそれぞれの学科が輝かしい魅力・特色を発揮できるような、より良い桜泉祭になるよう目指して参りました。

本学部の多くの同窓生と在学生の意識を一つにし、一層の発展と強化された運営を委員一同、全力で目指していく所存であります。この桜生工を御覧の同窓生の皆様には今後も桜泉祭に足を運んでいただき、末永い御協力・御支援のほど、宜しくお願い致します。

平成21年度 桜泉祭実行委員長 応用分子化学科3年 永倉拓也

桜泉祭実行委員会のホームページでは今年のイベントのスケジュールや模擬店の各メニューなど様々な情報を公開中です。最新の情報も随時更新していきますので、ご覧下さい。

桜泉祭実行委員会公式ホームページ <http://ousensai.com/>



桜泉祭実行委員会作成

土木工学科 昭和50年卒業



鹿島建設株式会社

東京土木支店第三土木統括事務所 中央環状品川線
統括事務所 五反田出入口工事事務所長

林 昇

プロフィール

昭和50年 4月 鹿島建設(株)入社
平成 4年 4月 〔建〕東京支店第一土木出張所
両国JV工事事務所工事課長
平成 6年 4月 〔建〕東京支店第一土木出張所新河岸処理場
JV工事事務所工事課長
平成 7年 2月 〔建〕東京支店土木部設計課長
平成10年 7月 東京支店西部土木営業所日大三高
第二グラウンド新設工事事務所長
平成12年11月 東京支店西部土木営業所稲城シールド
JV工事事務所長
平成15年 5月 東京支店第三土木統括事務所稲城シールド
JV工事事務所長
平成15年 6月 東京支店第三土木統括事務所富ヶ谷トンネル
JV工事事務所長
平成17年 7月 東京事業本部東京土木支店第三土木
統括事務所富ヶ谷トンネルJV工事事務所長
平成18年 9月 東京事業本部東京土木支店土木部
技術グループ担当部長
平成19年 4月 東京土木支店第三土木統括事務所中央環状
品川線統括事務所五反田出入口工事事務所長
現在に至る

「太径曲線パイプルーフ工法」

第10回国土技術開発賞最優秀賞・ものづくり日本大賞受賞

《受賞にあたって》

最優秀賞をいただき、ほんとうにありがとうございます。

太径曲線パイプルーフ工法の開発と富ヶ谷トンネルの実工事での具体的な工法の計画、詳細設計、施工の取りまとめを行ってきました。開発に当たって最も苦労したことは、掘進制御と計測方法でした。最初の実証実験では、地山内でR=16mの曲率半径を持つ掘進機に中折れ機構を持たせ、揺動により制御が可能であることを確認しましたが、難問は計測方法でした。掘進機の位置を正確に測定する計測方法として取り上げたジャイロ方式、水レベル+レーザー方式等種々試しましたが、掘進機位置の再現性や到達精度の確保が困難でした。試行錯誤の上、従来のトランシッドの改良・改善や鋼管内での湿気対策、目に見えない鋼管内での水平保持などを工夫しました。こうして、自動視準式光波測定器の連成による計測誤差±5mmと高い精度の縦断急曲線計測システムを生み出し、セグメントのぎりぎりのスペースに到達させる技術を確立しました。

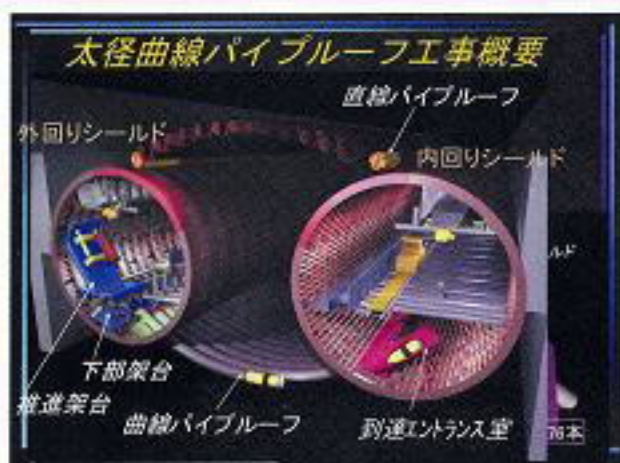
実施工では、曲線パイプルーフ76本を併設したシールド鋼殻主桁間から発進させ、約20m離れたシールド鋼殻の主桁間に到達させましたが、到達精度の管理値上下左右±80mmで全て成功しました。

我々土木の世界では、多くの基礎技術の組合せと、同業・異業種間との連携により、「成せば成る」ことを確証しました。この太径曲線パイプルーフ工法を開発し、施工実績ができたことは大変喜ばしく、更に適用の拡大を図っていく所存です。

「国土技術開発賞」は、建設分野における技術開発者に対する研究開発意欲の高揚と建設技術水準の向上を図ることを目的として、建設分野における優れた新技術及びその開発に貢献した技術者を対象に表彰する事業である。

「ものづくり日本大賞」は、我が国産業・文化の発展を支え、豊かな国民生活の形成に大きく貢献してきた「ものづくり」を着実に継承し、さらに発展させていくことを目的として、平成16年度に政府が創設した表彰制度である。最先端の技術から伝統的・文化的な「技」まで幅広い分野において中核を担う中堅世代のうち、特に優秀と認められる人材(ものづくり名人)に対して、2年に1回、内閣総理大臣より表彰が行われる。





太径曲線パイプルーフ工事概要



麻生太郎前総理大臣から受賞を受ける(左)

2本のトンネルを地中で接合する 「太径曲線パイプルーフ工法」の実用化

都市部の地下に、道路トンネルをシールド工法で構築する場合、出入口トンネルなどとの分岐・合流部を構築する方法としては、従来「地上からの開削切開き工法」が一般的であった。しかし、地上構造物や大規模な交差点などがある場合、地上構造物や地下埋設物への障害・影響の抑止、地上交通への影響の抑制、また周辺環境保全などの観点から、開削工法による施工が困難な場合が多く、「非開削による切開き」へのニーズが高まってきた。

「非開削による切開き」を可能とする工法として、凍結工法や高圧噴射攪拌工法などの地盤改良、直線パイプルーフ工法などの補助工法を併用した工法が、これまでに実用化されている。しかし、それら従来工法では、近接構造物への影響を含めた安全性と工期、工費などの面での課題が多く、特に道路トンネルのような大深度・大断面トンネルの分岐・合流部では、断面の規模が非常に大きく、それらの工法による地盤改良などの規模が非常に大きくなるため、現実的な工法として適用することが、難しい状況にあった。

実際、当時計画中の首都高速中央環状新宿線^{こせんきゅう}富ヶ谷出入口トンネル工事は、直径13mの2本のシールドトンネル周を切開いて出入口トンネルを構築するものであったが、井の頭通りと山手通りとの交差部に位置するため、地上からの開削工法を用いることができなかった。また、周辺には、水道管や小田急電鉄の^{こせんきゅう}跨線橋の基礎などの重要構造物があり、それらに悪影響を及ぼさずに施工できる「非開削地中切開き工法」の開発が不可欠となった。

今回の受賞技術である「太径曲線パイプルーフ工法」は、こうした状況下において、地上の周辺環境への影響を最小限に抑えるために短期間で開発した「非開削地中切開き工法」であり、主軸となる太径曲線パイプルーフで大断面の分岐・合流空間に対してアーチ土留めを確実に構築し、さらに必要に応じて凍結工法などの補助工法を併用することにより、地下空間の切開きを非開削で行うことを可能とした画期的な技術である。現在は右図工事を進行中です。

中央環状品川線シールドトンネル工事
五反田出入口工事完成イメージ図

学科ニュース

機械工学科

【学生数】学部 1,106名 大学院(修士) 70名 (博士) 4名

【人事】新任として仲間大助手(平成21年4月1日)、坂田憲泰助手(平成21年9月1日)が赴任されました。勝田基嗣教授が平成21年10月25日に定年退職されます。長い間学部、学科の発展にご尽力頂きまして有り難うございました。

【学位取得者】仲間 大(後期課程修了)

【トピックス】○本年度の機械工学科では、石井進教授(現学部長)が副総長(平成21年4月1日)に再任され、図書館長の坂井卓爾教授と共に学部の運営・発展に尽力されています。○新学科設立に伴い本年度より学生定員は180名となり、3コース(自動車工学コース、航空宇宙コース、機械創造コース)に各60名の定員で少人数教育を実施しています。○山崎博司教授(平成21年度より新学科へ移籍)が短期(平成21年7月～10月)海外留学(米国)されました。邊吾一教授が平成21年8月に約1ヶ月パイロット養成システムに関する調査で渡米されました。景山一郎先生が自動車技術会材料会議ドライバ評価手法検討部門貢献賞(平成21年8月27日)を網島均先生が日本鉄道技術協会第1回日本鉄道技術協会坂田記念賞優秀賞(平成21年5月22日)を、野村浩可先生が日本航空宇宙学会論文賞を受賞されました。

電気電子工学科

【学生数】学部 909名 大学院(修士) 36名 (博士) 0名

【人事】昇格: 愛澤忠良教授 伊藤浩教授 大塚哲郎教授 黒岩孝教授 坂口浩一教授 清水耕作教授 霜山竜一教授 中西哲也教授 内田暁准教授 新任: 工藤祐輔助教

【学位取得者】内田暁 博士(工学)を取得

【トピックス】○本学科では、少人数教育、学生の広範囲にわたる興味に対応すべく、エネルギーコース、eコミュニケーションコース、クリエイティブエンジニアリングコースの3コース制をとっています。この中で、クリエイティブエンジニアリングコースは、平成22年度にJabeeの認定審査を予定しています。これは、国際的に通用する技術者の育成が狙いであり、日本技術者教育認定機構により審査認定された教育プロセスと教育環境のもとに教育が行われるコースです。これに向けて、教育の質、成果を保証し、かつ改善に継続的に取り組んでいます。○一方、ものづくり、エンジニアリングデザインに重点を置いたプロジェクト演習が本年からスタートしました。制約条件のもとで、目標テーマを実現する手段を複数の候補から選択し、対象物を設計し、製作し、評価することを体験する授業です。



ペルチェ効果を利用したアイスクリーム作り

(昨年の桜祭風景)



ロボット製作

土木工学科

【学生数】学部 909名 大学院(修士) 30名 大学院(博士) 2名

【人事】昇格: 秋葉正一教授 落合実教授 工藤勝輝教授 加納剛輔助教 移籍: 新学科設立に伴い、本年度から五十畑弘教授、越川茂雄教授、岩下圭之准教授、保坂成司専任講師の4名は環境安全工学科へ移籍し、土木工学科の兼任となりました。平成21年度は木田哲量教授が学部次長に再任されています。そして土木工学科は主任に落合実教授、大学院専攻主任に五十畑弘教授が選任され、運営されています。

【学位取得者】甲種(後期課程博士): 木科大介氏(主査: 大木宜章教授)「生物化学的実験手法による2段階メタン発酵の効率化に関する研究」、濱田龍寿氏(主査: 遠藤茂勝教授)「水撃圧を用いた藍藻の不活性化とバイオマス利用に関する研究」平成21年3月に博士(工学)の学位が授与されました。乙種(論文博士): 今野誠氏(主査: 木田哲量教授)「関東ロームの工学的特性の改善と地盤強度を考慮した橋脚の高耐震化に関する研究」平成21年3月に博士(工学)の学位が授与されました。



小山ダム見学

【トピックス】柳内睦人教授は平成21年度短期海外派遣研究員として7月21日から1ヶ月海外出張されました。恒例の1年生オリエンテーションは1泊2日(4月18～19日)で茨城県小山ダムと日本原子力発電(株)東海テラパークを見学、袋田温泉に宿泊して、グループミーティングなどで懇親を深めました。今回も茨城県内の校友の方々に見学現場の手配などでご尽力いただきました。そして土木工学科恒例の3年生生産実習における現場見学旅行(9月9～10日)は首都圏外郭放水路、中央連絡自動車道、羽田空港拡張、瀬西川ダムなどの事業を3つのグループに分かれて見学を行い、鬼怒川温泉に宿泊しました。この旅行でも各方面の校友の皆さんにご協力を頂いて実施させていただいています。



東海テラパーク見学風景

建築工学科

【学生数】学部1037名 大学院(修士)58名 大学院(博士)4名

【人事】平成21年度の学科主任は川村政史教授、専攻主任は櫻田智之教授が任命されました。師橋憲貴専任講師は4月1日付で准教授に昇格されました。北野幸樹助手、亀井靖子助手は4月1日付で専任講師に昇格されました。小倉大助助手は3月31日をもって退職されました。平成21年4月より新学科設置に伴い、日高軍也教授、宮崎隆昌教授、川岸梅和教授が創生デザイン学科の兼任教授として、田中遼助手が専任講師として就任しました。

【学位取得者】北野幸樹助手(現専任講師は博士(工学)の学位を日本大学より平成20年12月1日に授与された。論文題目:近隣空間における余暇活動と余暇関連施設に関する研究(住宅団地を中心とした大都市近郊地域と地方小都市市街地域との比較を通して) 亀井靖子助手(現専任講師)は博士(工学)の学位を日本大学より平成20年12月1日に授与された。論文題目:郊外建築団地の住戸改変と極限形成に関する建築計画的な研究

【トピックス】○建築工学科主催の「建築展」は今回で8回目を迎え2008年10月27日～11月5日にかけて開催しました。4・5号館をメイン会場とした作品の展示と、記念講演会として伊丹十三記念館の館長兼女優である宮本信子さんをお呼びして、同館設計者で本学研究所教授の中村好文氏とのギャラリー・トークを実施しました。○師橋憲貴准教授は平成20年度日本大学海外派遣研究員(長期)として米国のコロンビア大学へ平成21年3月29日から1年間出張中です。○新学科創設にともない平成21年4月より建築工学科の学生定員は230名から180名となり、新たに建築総合コース(120名)、建築環境デザインコース(30名)、居住空間デザインコース(30名)の3コースに変更しました。

○日本建築学会が4月から全国で巡回展示を行っている「アーキニリング・デザイン展」が2009年8月1・2日のオープンキャンパスに合わせて5号館にて開催しました。展示内容は世界遺産建築から最先端の建築まで、その仕組みを模型でわかりやすく表現したもので、広田研究室の学生をはじめ全国の大学の研究室と有志の学生が制作した102作品が展示されました。(写真1)

○第21回千葉県建築学生賞(主催:千葉県建築学生賞協議会)において、6大学20作品がエントリー・展示された中、最優秀賞(遠藤孝弘:国境博物館)、奨励賞(関佳子:佐渡の修景)を受賞しました。○第9回卒業設計コンクール(主催:助産玉建築設計監理協会)において、9大学26作品がエントリー・展示された中、最優秀賞(遠藤孝弘:国境博物館)、審査員特別賞(後藤信希:人の為の森、森の為の建築)を受賞しました。



アーキニリング・デザイン展

応用分子化学科

【学生数】学部915名 大学院(修士)63名 大学院(博士)5名

【人事】平成21年度の学科主任は山田康治、専攻主任清水正一が任命されました。平成21年3月に白川誠司助教(有機化学)が退職され、新任の教員として市川隼人助教(有機化学)および佐藤敏幸助手(化学工学)の2名が4月に着任されました。市川助教の所属は清水研究室、佐藤助手の所属は日秋研究室です。一方、柏田専任講師(生体機能化学)が准教授に、岡田昌樹助手(反応工学)と齊藤和恵助手(分析化学)がそれぞれ専任講師に昇格されました。

【学位取得者】齊藤和恵(さいとうかずのり)専任講師が平成21年3月24日に埼玉大学大学院理工学研究科より博士(理学)の学位を取得されました。論文のタイトルは「酸化還元反応の利用による液体クロマトグラフィーの分離選択性向上に関する研究」です。

【トピックス】○本年度から環境安全工学科と創生デザイン学科が新しく設置されたのに伴い、応用分子化学科から神野教授、町長教授、松田教授、坂本准教授、古川専任講師と小森谷助手の先生方が関連の深い環境安全工学科に異動されました。新しい学科でのご活躍をお祈りします。写真は昨年度末の3月23日に開催された社行会で撮影したものです。○研究面では2008年度に辻智也教授がインドで開催された化学工学分野の国際会議で招待講演を行い、Chemical Weekly's Padmasri Dr G P Kane Chemoon Distinguished Speaker Award 2008を受賞されました。また岡田昌樹専任講師は中国大連で開催された化学工学の国際会議(APCChE 2008)で放電プラズマによる炭化水素の直接合成に関する発表が評価され、最優秀ポスター発表賞を受賞されました。○本年度も県総合教育センター主催の研修講座を平成21年8月20日に応用分子化学科で実施しました。当学科の教員による講義や実験を通じて、千葉県内の公立中学・高等学校で理科を担当されている先生の研修に協力させていただきました。



応用分子化学科社行会

学科ニュース

マネジメント工学科

【学生数】学部904名 大学院（修士）27名（博士）2名

【人事】昇格：飯沼守彦准教授 鳥居塚崇准教授

窪谷祐宣（退官） 秋山典史（退官）

【トピックス】○秋山典史先生が、ご退官後周もなくお亡くなりになりました。心よりご冥福申し上げます。

○吉田典正先生が、アメリカのユタ州にあるBrigham Young Universityに、1年間の海外派遣研究員として、8月1日に出発されました。

数理情報工学科

【学生数】学部593名 大学院（修士）39名（博士）1名

【人事】新任：見坐地一人教授 岡哲資准教授

昇格：細川利典教授 三井和男教授（創生デザイン学科兼任） 関重紀子助教授

【トピックス】○数理情報工学科では本年度より学生定員が30名増加し、1学年140名定員となりました。従来の情報工学（JABEE認定）コースと情報数理コースに加え、新たにメディアデザインコースを新設し、新任教員2名（見坐地教授、岡准教授）を迎え新しいスタートを切りました。見坐地教授は柴田研究室の卒業生です。

○5月16日（土）、17日（日）に1年生のオリエンテーションが箱根高原ホテルで行われました。あいにく天気には恵まれませんでしたが生徒と教員の親睦をはかることが出来ました。

数理情報工学科のホームページは随時更新しています

<http://www.su.cit.nihon-u.ac.jp/> をご覧ください。



オリエンテーション

環境安全工学科

【学生数】学部164名

【人事】五十畑弘教授 神野英毅教授 越川茂雄教授 町長治教授 松田清美教授 山崎博司教授 岩下圭之准教授 坂本恵一准教授 長井浩准教授 古川茂樹専任講師 保坂成司専任講師 小森谷友絵助手

【トピックス】○「環境安全工学科」科学・技術の発達による恩恵は生活の隅々まで浸透し、必要不可欠なものになっています。しかし人類全体でその恩恵を享受しようとした時に地球環境や安全が脅かされるという事態が発生しました。また環境・資源は有限であり、20世紀型の科学技術では持続可能な社会の実現が不可能であること、人類が繁栄を続けるには、環境・安全・エネルギーの分野が最も重要であることが明らかになりました。環境安全工学科は、このような時代的、社会的要請に応え、自然との共生と安全社会をめざすための学際的な知識と技術を必要とする、新しい複合総合工学として誕生しました。環境安全工学科は、生産工学の素養を持ち持続可能な社会を担う環境・安全・エネルギーのサステナブルエンジニアリングコーディネータとして、あるいは社会科学の素養を持ち国際社会で活躍できる環境・安全・エネルギー問題を牽引するガバナンスエンジニアの育成を目的としています。○第一期生を迎え入れました。4月1日、環境安全工学科は164名の第一期生を迎えスタートを切りました。また4月3、4日には学生相互また学生と教員との親睦を深め、一日も早く大学生活に慣れてもらうことを目的にオリエンテーション旅行を実施しました。鴨川温泉でのグループミーティングや富津岬での地引き網など様々なイベントを企画し、「友達が出来て良かった」、「楽しかった」、「また行きたい」などの声が多く聞かれる充実した旅行となりました。



創生デザイン学科

【学生数】学部152名

【人事】新任：内田康之准教授 中川一人助手 中澤公伯助手

昇格：三井和男教授 鳥居塚崇准教授 田中遼専任講師

【トピックス】本年度、生産工学部創設以来の新学科として、創生デザイン学科が誕生しました。学生数152名（うち女子48名）、教員15名（うち助手2名）でのスタートです。学科の基盤科目である創生デザイン演習は、改修された8号館で行い、学生・教員が一丸となって順風満帆にして学科が動き出しました。大きなイベントとしては、5月にオリエンテーションを箱根で行い、学生同士、学生・教員の親睦を深め、とくに2日目には彫刻の森美術館を見学してデザイン心を養いました。



教養・基礎科学系（旧一般教育教室）

【人事】菊地俊紀准教授（健康科学）、ダニカ・ヤング助教（言語文化）、岡田 潤助教（数学）、大塚康典助教（物理）、姫本宣朗助教（物理）、朝本祐充助手（化学）の6名が新しく着任されました。なお、朝本先生は平成18年3月に本学部大学院工業化学専攻を修了後に本学薬学部大学院薬学専攻に進学して博士（薬学）を取得後、母校に着任しました。また、内堀朝子専任講師が准教授に昇格されました。その他、木村宣明教授、岩谷祥美教授、永口孝徳教授、山本昌典准教授、中村卓史准教授、安藤正信専任講師、加藤正人専任講師、ダイアン・ラム講師（専任扱）、レスリー・ラスト助教の9名の方が退職されました。長い間、お疲れ様でした。

【トピックス】田中直樹元教授の長きにわたる学内外での功績が認められ、日本大学より名誉教授の称号が授与されました。教養・基礎科学系としては久々の快挙です。おめでとうございます。中條清美准教授が英語コーパス学会から、「英語学習語彙研究とパラレルコーパスを利用したDDLに関する研究」で学会賞を受賞されました。また、山形治江教授が平成20年度の日本大学生産工学部教育貢献賞を受賞されました。山川一三男准教授と本学部の学生が中心となって夏休みに国立科学博物館で開催された「理科教室」に参加しました。テーマは「光を作ろう」で、整理券が出るほどの盛況でした（写真）。新入生を対象とする教養・基礎科学系では「実習イベント」と称して、ボーリング大会やスポーツ観戦、芸術鑑賞などを行っています。学生と教職員との親睦を図る良い機会になっており、今後も継続して実施していく予定です。その他、本学部が地域への貢献として参加している「千葉県プレーメン型地域社会づくり」に教養・基礎科学系の多くの教員が参加し、地域と大学の橋渡しに一役買っています。



入学試験

平成22年度入学試験日程

入試の種類別	出願期間	試験日	試験場	発表日	選考方法
AO入学試験 第1日	AO入学試験説明会 8月1日(土)・2日(日)	9月19日(土)	本校(津田沼校舎)	9月30日(水)	選性検査、模範授業(学科によってはグループ討議を含む)、面接(学科によってはプレゼンテーションを課す)、書類審査
AO入学試験 第2日	9月8日(火)～9月14日(月)	9月20日(日)	本校(津田沼校舎)		
編入学試験(2・3年次)	9月25日(金)～10月1日(木)	10月10日(土)	本校(津田沼校舎)	10月16日(金)	学力試験(英語・数学、口述試験)
体育推薦入学試験	11月5日(木) 必着	11月15日(日)	本校(津田沼校舎)	11月20日(金)	書類審査、小論文、面接試験
指定校制推薦入学試験(普通科)(専門学科・総合学科)	11月4日(水)～11月9日(月)	11月15日(日)	本校(津田沼校舎)	11月20日(金)	書類審査、小論文、面接試験
校友子女入学試験	確認書締切日 未定 11月4日(水)～11月9日(月)	11月15日(日)	本校(津田沼校舎)	11月20日(金)	書類審査、小論文、選性検査(英語分野・数学分野)、面接試験
外国人留学生入学試験	10月16日(金) 必着 願書領有期間 未定	11月15日(日)	本校(津田沼校舎)	11月20日(金)	基礎学力試験(英語分野・数学分野)、作文(日本語)、面接
帰国生入学試験	10月16日(金) 必着 願書領有期間 未定	11月15日(日)	本校(津田沼校舎)	11月20日(金)	基礎学力試験(英語分野・数学分野)、作文(日本語)、面接
公募制推薦入学試験	12月2日(水)～12月7日(月)	12月12日(土)	本校(津田沼校舎)	12月18日(金)	選性検査(英語分野・数学分野)、書類審査、面接試験
付属高等学校等推薦入学試験 A方式	統一テスト 11月14日(土) 12月2日(水)～12月4日(金)	12月19日(土)	本校(津田沼校舎)	12月25日(金)	書類審査、面接試験
付属高等学校等推薦入学試験 B方式	11月12日(木)・13日(金)	11月21日(土)	本校(津田沼校舎)	11月27日(金)	書類審査、面接試験
C方式第1期(センター試験を利用した試験)	1月8日(金)～1月16日(土) 窓口受付 ※ 1月16日(土)	1月16日(土) 1月17日(日)	大学入試センターが指定する試験場	* 2月10日(水)	大学入試センター試験の成績で合否判定。教科・科目・配点は、学科ごとに別途定める
C方式第2期(センター試験を利用した試験)	1月8日(金)～3月8日(月) 窓口受付 ※ 3月8日(月)	1月16日(土) 1月17日(日)	大学入試センターが指定する試験場	* 3月18日(木)	大学入試センター試験の成績で合否判定。教科・科目・配点は、学科ごとに別途定める
一般入学試験 A方式第1期(本校試験)	1月8日(金)～1月23日(土) 窓口受付 ※ 1月22日(金)・1月23日(土)	2月1日(月)	津田沼(本校)、札幌、仙台、水戸、高崎、大宮、東京、横浜、新潟、長野、静岡、名古屋、大阪、広島、福岡の15試験場	2月8日(月)	学力試験：試験科目・配点については学科ごとに別途定める
A方式第2期(本校試験)	1月8日(金)～2月2日(火) 窓口受付 ※ 2月1日(月)・2月2日(火)	2月9日(火)	津田沼(本校)、水戸、大宮、東京、横浜、千葉の6試験場	2月16日(火)	学力試験：英語、数学、理科(物理あるいは化学)。第二志望の出願を認める
A方式第3期(本校試験)	1月8日(金)～2月11日(木) 窓口受付 ※ 2月10日(水)・2月11日(木)	2月19日(金)	津田沼(本校)、札幌、仙台、水戸、高崎、大宮、東京、横浜、新潟、長野、静岡、名古屋、大阪、広島、福岡の15試験場	2月25日(木)	学力試験：3教科受験し高得点の2科目で合否判定。試験科目・配点については学科ごとに別途定める

*窓口受付時間は10:00～16:00 本部入試センター *大学入試センターのスケジュールによる。

入学試験募集人員

	AO入学試験	校友子女入学試験	推薦入学試験		一般入学試験				
			指定校制		A方式第1期	A方式第2期	A方式第3期	C方式第1期	C方式第2期
			普通科	専門学科・総合学科					
機械工学科	22	2	28	8	25	12	8	24	2
電気電子工学科	19	2	25	7	22	11	7	21	2
土木工学科	22	2	28	8	25	12	8	24	2
建築工学科	22	2	28	8	25	12	8	24	2
応用分子化学科	19	2	25	7	22	11	7	21	2
マネジメント工学科	19	2	25	7	22	11	7	21	2
数値情報工学科	15	1	23	7	20	10	6	19	2
環境安全工学科	13	1	22	6	17	9	5	16	2
創生デザイン学科	13	1	22	6	17	9	5	16	2

入試センター TEL 047(474)2246

日本大学生産工学部校友会誌「桜生工」

発行：日本大学生産工学部校友会

住所：千葉県習志野市泉町1-2-1

TEL：047-476-1140

FAX：047-476-3510

HOMEPAGE：http://www.asahi-net.or.jp/~wa3k-kkt/index.html

E-MAIL：wa3k-kkt@asahi-net.or.jp

印刷：株式会社 東工

住所：東京都北区赤羽北2-2-12

TEL：03-5963-5702

FAX：03-5963-5704

編集：日本大学生産工学部

校友会広報委員会